

ニュースレター
News Letter

No. 05

2022年12月発行

WEBサイトはこちら▼



お問い合わせ／広島大学大学院 人間社会科学研究科 教職開発専攻(教職大学院) 広報担当:寺内大輔
東広島市鏡山1-1-1 TEL:082-424-7146 e-mail:terauchi@hiroshima-u.ac.jp https://kyoshoku.hiroshima-u.ac.jp/



ポスター発表



発表テーマの例

- 「資質育成型」社会科授業の実践開発
～ツールミンモデルを活用した社会的事象の対象化・意味の多層化を通して～
- 児童の「学びの自立」を確立する授業開発
～日常の事象を統合的・発展的に考察する活動を通して～
- 社会に参画しようとする態度を育成する総合的な学習の時間の単元開発
～サービス・ラーニングを取り入れた地域課題の探究を通して～
- 教師の情緒的消耗感を軽減させる研修に関する研究
～アセスメントをもとにした児童生徒理解による自己効力感の変化とソーシャルサポートが与える影響～ など

2022年9月9日(金)・10日(土)、教育実践開発コースのアクションリサーチ(AR)発表会が開催され、それぞれの院生が前期に行った実地研究ⅠⅡⅢの成果が発表されました。



口頭発表



アクションリサーチ(AR)とは

個々の課題に対して、自ら学校で様々な実践(アクション)をし、その振り返りを行うことによってすすめていく研究です。本教職大学院の特色のひとつとなっています。

教育実践開発コース 令和4年度 アクションリサーチ・Ⅲ発表会



コース生の集合写真

発表会は、成果発表であると同時に、今後の課題の確認でもあります。私も今回の発表を踏まえ、次の実践の準備をしたいと思います。

執筆 田中 佑明 ●教育実践開発コース1年

授業紹介

『学級経営の理論と実践』

担当:宮里 智恵先生・大久保 幸則先生

「学級経営の理論と実践」では、吉本均先生著作選集「授業と学習集団」が取り上げられています。読んで印象に残った点や、疑問に感じた点を各自が持ち寄り、グループごとに共有・協議を行います。その後、「個を集団で育てるためには?」や、「学習集団と学級集団の違い」などの学級経営に関するテーマを設定し、グループごとに再度検討・共有を行います。この講義では、教職大学院に在籍する学部卒院生、現職院生が校種も含めバラバラに、さらに他専攻の大学院生も参加するため、異なる視点から議論することができます。吉本先生の当時の学級の捉え方を通して、現代との共通点や相違点を踏まえつつ、学級経営のあるべき姿について考え直すことができます。



執筆 岡野 天斗 ●教育実践開発コース2年

『グローバルマインドの授業開発』

担当:岩坂 泰子先生・難波 博孝先生・永田 忠道先生

「グローバルマインドの授業開発」の講義はオムニバス形式で開講されています。この講義は、身近にある様々な問題や教育を、「グローバルマインド」という大きな視点を意識しながら、学生と担当教員がともに議論し、学んでいく授業です。私は、この講義で、他者という存在について深く考えさせられました。様々な興味関心や背景を持つ我々は、同じものを見たり聞いたりしているようでも、同じ見方や考え方をしているわけではありません。このことは、理解は容易でも実感することは難しく、自分と異なる他者を本当の意味で受け入れることは不可能なように感じてしまうこともあります。しかし、他者と自己の存在自体を理解し、受けとめようとする態度自体が「グローバルマインド」につながっていくのだろうと考えました。

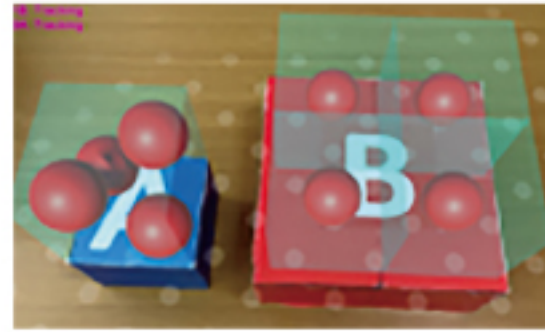
執筆 加藤 滉教 ●教育実践開発コース1年



中学校理科におけるAR教材を用いた授業開発に関する研究

蔵富 航輝 ●教育実践開発コース2年

理科では、科学的概念の理解が重要視されています。しかし、目に見えない科学的概念の理解は難しく、課題があるとされています。この課題解決に向けて、近年ICT教材、特に、AR(拡張現実技術:Augmented Reality)教材の活用が注目されています。本研究では、中学校理科において科学的概念の理解を促すAR教材の作成とそれを用いた指導法の考案を行いました。例えば、電子やイオンの動きを視覚化して電池について理解を促したり、物質の密度をイメージしたりすることができるAR教材を作成しました。そして、考案した指導法で実際に中学校にて授業実践を行いました。授業実践前後に、評価問題でAR教材と指導法の効果を検証しました。



実際に作成したAR教材



院生の研究内容を紹介します!



統合的・発展的に考察する力を育成する算数科授業の開発

—複式学級での異学年交流を通して—

川口 知佐子 ●教育実践開発コース2年

数学的な見方・考え方の一つである「統合的・発展的に考察する力」は、複式学級で、異学年交流を行うことで育成できるのではないかと考えて研究を進めています。算数科は、系統性の強い教科です。既習事項を統合して、それをもとにさらに広げて発展させることで、数学的な課題を解決できるようになると考えています。例えば、低学年ではかさりと長さを同時に学習することで、測定方法が同じであることに気付きます。同じ教室で学ぶからこそ、導入や終末で交流することができ、そこで同じ考え方に気付き、理解につながります。違う学習をしているのに、同じだと分かった子どもの反応は、とてもよく、異学年での学び合いは大切であると感じます。交流することで効果があると考えられる単元を考えたり、同じ問題場面を考えたりして実践を行い、統合的・発展的に考察することができているかを検証しています。



授業の一コマ～異学年交流～

ご指導いただいている先生方の教育・研究

子どものために、家庭・学校・地域社会は「ともに」どうあるべきか

学校マネジメントコース

林孝 先生

はやし たかし

大学院人間社会科学研究所 名誉教授
専門分野:学校経営学・地域教育経営学・教師教育学



現在、大学での教育研究・学生への講義だけでなく、広島県生涯学習審議会の会長や海田町教育委員会教育委員も兼任されています。教育行政的な視点からも「子ども」のための教育の推進と充実に努められ、令和3年度地方教育行政功労者として文部科学大臣より表彰されています。今では当たり前のように唱えられている、家庭・学校・地域社会の連携・協働に学生の頃から課題意識を持たれており、近年では「職員室文化」という言葉を定義し、その視点を基に学校経営や教師教育の研究を進めてこられたとのこと。中でも、徳島市の地域特性の異なる3小学校区に着目して教育政策の変遷に伴い「家庭・学校・地域社会の教育連携」の変容の様子を20年もの期間をかけて縦断的に研究されたことを伺い、研究に対する熱量だけでなく、「子ども」に対する教育的愛情の強さに敬服いたしました。

最後には「ARで2つの学校を見てきているから、その経験を生かしてまずは配属先の学校について理解し、自分のできることから力を発揮してほしい」と背中を押していただきました。このお言葉を胸に刻み2年間の学びを生かせるように来年から頑張っていこうと思いました。

執筆

川口 知佐子

●教育実践開発コース2年

鈴木 颯太

●教育実践開発コース2年



これまでに執筆された御著書

教育研究と芸術実践とのつながりの大切さを心に留めて

教育実践開発コース

寺内 大輔 先生

てらうち だいすけ

大学院人間社会科学研究所 准教授
専門分野:音楽表現(作曲・即興演奏)・音楽教育



最近、音楽づくりの教材開発に関わる論文を、音楽教育の国際誌「International Journal of Music Education」で発表されたそうです。また、作曲家・即興演奏家としてもご活躍で、楽譜やCDも国内外で出版されています。これまでに作品発表や演奏を行った国は13か国(!)にも及ぶそうです。教育研究、芸術実践の両方でご活躍の寺内先生ですが、私たちの取材時、先生はそれらの「つながり」についてしばしば言及されました。「あまりつながりのないことのように感じている方もいらっしゃるかもしれませんが、(前述の)教材も、コンサートでの実践から生まれたものなんです」とのこと。さらに、そのような「芸術実践」と「学校教育」とのつながりは、現場の先生方にとっても大切なことだとも仰いました。

子どもたちから新しい考えを引き出すことは、すべての教科の授業において大切です。教師自身が「芸術実践」を豊富に経験することは、子どもたちがもつチャレンジ精神、豊かな発想、感性、意図、困難さ、達成感や喜びなどの理解の基盤になると思います。そして、そうした理解を指導に生かせることは、教師としての大きな強みになりますし、子どもたちにとっても、身近な先生が作品を生み出しているってワクワクしますよね。私達も、小さなことから実践したいと思います。

執筆

壺貫田 裕美

●教育実践開発コース1年

大矢 孟

●教育実践開発コース1年



昨年リリースされたレコード「坂道のような階段のような」

人との「つながり」を大切しながら、それぞれの立場を理解すること

教育実践開発コース

大久保 幸則 先生

おおくぼ ゆきのり

大学院人間社会科学研究所 准教授
専門分野:教育実践学・学級経営方法論



大久保先生は、大学院で実務家教員として教壇に立たれるまでに、小学校教員・教育委員会指導主事・教頭・校長と教職に関わる様々なお立場を経験して来られました。

教育委員会の指導主事の職務に就かれていた際は、市民の付託に応えるべく、指導主事として各学校への指導・助言はもちろん、その中で「学校の良さ」・「先生の良さ」を引き出し、伝えることを心がけておられたそうです。

学校管理職に就かれてからは、常に学校で働かれる先生方の仕事がしやすくなるように考えておられたそうです。

大久保先生は、人生の転機には、必ず支えになってくれた人がいたと語られました。どんな立場で仕事をするようになって、「人とのつながり」を大切にすることで、「新たなつながり」が生まれるということについて、笑顔で力強く語られました。

大久保先生へのインタビューから、様々な経験をすることが、それぞれの立場を理解することへとつながり、教職に対する幅広い視野の獲得につながるということを学ばせていただきました。「学びのつなぎ手」としてご活躍される大久保先生のご講義からの学びを、実際の学校教育現場でも生かしていきたいと感じました。

執筆

中村 祐哉

●教育実践開発コース1年



いつも温かい雰囲気の中でご指導くださいます。

編集後記 / 第5号

担当 / 田中 佑明 ●教育実践開発コース1年



広島大学教職大学院ニューズレター第5号をご覧いただき、ありがとうございます。今回の号から大学院の授業紹介や大学院生の研究紹介、院生による教員の紹介を記載することになりました。今後も、広島大学教職大学院のことをより広く知っていただけるよう努めてまいります。